

TTCJ 2016 年 7 月例会 レポート

日時：2016 年 7 月 28 日（木）18:30～21:00

場所：ベルギー大使館（東京都千代田区 2 番町 5 - 4）

講演：

- ・テーマ：「日本・ベルギー友好 150 周年にあたり、現在・これからのベルギー」
- ・講演者：
 - ダミアン・ドーム氏（ベルギー観光局ワロン・ブリュッセル 日本支局 局長）
 - 須藤美昭子氏（ベルギー・フランダース政府観光局 日本地区局長）

デモンストラーション：

- ・内容：「ベルギービールの魅力」～美味しさ、歴史、食文化との関係～
- ・説明者：佐藤ひとみ氏（ベルギービール広報センター）

麹町駅から徒歩数分の便利な場所に位置するビルにベルギー大使館がある。会員及びゲストを合わせて 50 人を超える出席者が集った。

当会（TTCJ）佐藤会長よりの冒頭挨拶の後、前置きとして、ダミアン・ドーム氏より、ベルギー国の概要説明があった。

《ベルギー国概要》

- 1.面積：四国の 1.5 倍程度（3 万 km²）
- 2.人口：1,100 万人・・・東京都と同規模
- 3.首都：ブリュッセル・・・人口 110 万人
- 4.言語：3 つの公用語（ベルギー独自の言語はない）
 - ①フラマン語（オランダ語の一種 60%）、②フランス語（38.5%）、③ドイツ語(0.5%)
- 5.地方行政区分：連邦制・・・6 つの組織で構成
 - ◎参考 1）地域政府（3 つ）：①フランダース、②ワロン、③ブリュッセル首都圏
 - 2）共同体政府（3 つ）：①フラマン語（オランダ語の一種）、②フランス語、③ドイツ語
- 6.その他：ヨーロッパの十字路そして歴史・文化の中心に位置するという背景もあり、EU の首都がブリュッセルに置かれている。

複雑なヨーロッパの歴史的な背景を踏まえてか“歴史的に大きな転換点となった 1815 年のワーテルローの戦いでナポレオンが勝利していたなら、今のベルギーはなくフランスであった・・・。“とのドーム氏の言葉は、印象的であった。

続いて、地域別の特筆事項について、オープン予定のものも含めて、ワロン及びブリュッセル地域はドーム氏より、フランダース地域（ブリュッセル地域一部補足）は須藤氏より、説明がなされた。

《ワロン・ブリュッセル地域》

1. TRAINWORLD :

ベルギーの鉄道の歴史に残るコレクションを題材とした舞台（オペラ）。

2. チョコレート・ビレッジ :

ベルギーの重要な遺産であるベルギーチョコレート、カカオの産地、製造技術を知ることが出来る。

3. 現代美術館 MIMA :

ポップカルチャーに特化した現代美術を展示している。

4. パーラメンタリウム :

EU の政治や議会の勉強が出来る。

5. ヨーロッパ歴史美術館 :

2016 年オープンでヨーロッパの歴史（生活・文化）を知ることが出来る。

6. タンプル・ド・ラ・ビエール :

2019 年オープン予定の五感でビールを楽しめる場所。

7. ル・シャ美術館 :

2019 年オープン予定の風刺漫画家フィリップ・グルックが描いた主人公をテーマとした美術館。

8. 近代美術館、現代美術館 :

2019 年オープン予定で、アール・ヌーボー期及びアール・デコ期の芸術を知ることが出来る。ベルギーはアール・ヌーボー発祥の地。

9. トウルネー・・・世界遺産の町 :

世界遺産に登録されている 1188 年着工のベルギー最古の鐘楼がある。

10. モンス :

ゴッホが住んでいた家が残る。

11. デュルビューイ・・・世界で一番小さい市 :

アルデンヌの森に囲まれグルメ（ジビエ料理他）の町として有名で、倉敷に景観が似た地区が有る。

12. レージュ・・・西ヨーロッパの十字路 :

独特の文化を持つ。知る人ぞ知るグルメの町。

13. スパ・・・温泉の町 :

熱い温泉ではない。お湯は飲める。“スパ”という言葉の語源となった町。

有名な「スパ・フランコルシャン F1 サーキット」は、スパの近郊で開催される。

《フランダース地域》

ベルギーの北半分を占める地域で、歴史的建造物や芸術を始め、一つ一つの都市ならではの文化が感じられる奥深いところ。グルメの地域でもあり、若手シェフを育てる下地があり、ワッフル他"おいしい巡り “も売りの一つである。

1.ブリュッセル：

- ・グランプラスの「フラワーカーペット」が有名。
- ・ブリュッセル地下鉄駅ホームの壁に描かれている絵・“こんなところにもアート“。

2.ブルージュ：

- ・石畳の路地、煉瓦の家並み・・・旧市街全体が世界遺産に登録されている。その景観は「屋根のない美術館」とも称される。
- ・糸の宝石とも称されるベルギーレースが知られている。

2.ゲント：

- ・ゲント美術館・・・聖バーフ大聖堂祭壇画「神秘の子羊」が有名。細密画で、髪一本、血管まで細部が表現されている。

3.アントワープ:芸術・文化に加え、ダイヤモンドとファッションがこの町のキーワード。

- ・「聖母大聖堂」・・・ルーベンスの傑作が並ぶ。
- ・世界のダイヤモンド取引の中心地。
- ・アントワープ出身のデザイナーも多い。
- ・ウェストマール・トリプル・・・トラピスト修道院で作られるビールの一つ。洗練された優雅な味わいが世界のビール通に絶賛される。

4.メッヘレン：

- ・伝統工芸のタペストリー（室内装飾用綴れ織り壁掛）で、世界的に知られている。祇園祭りの山鉾にも使われている。

講演が終了した後、佐藤（ひとみ）氏によるベルギービールの説明が行われた。

《説明要点》

1.ベルギーはビール大国。ビールに国の名前が付いているのは、ドイツとベルギーだけ。

2.キーとなる数字：

- ①銘柄数：1500、②醸造所数：199（増加している）、③消費量：710/人

3.特徴：

- ①11種あるタイプによって、グラスの形も変わる。
- ②タイプによっては、料理にも使われる。（サラダドレッシングにビールも）

4.ベルギービール ウィークエンド2016：

- ・ベルギー・日本友好150周年を踏まえ全国8都市で順次開催中。

5.本日の懇親会で提供のビール名：

- ①ヴェデット・エクストラ・ホワイ、②シュフ・ソレイユ150、③ブロンシュ・デ・ナミュール・ロゼ、④オルヴァル、⑤ドウシャス・デ・ブルゴーニュ

佐藤氏による説明の後、レセプションフロアーに移動し立食形式の懇親会となり、鉄道パスやベルギービールが当たる抽選会も行われ、例会は盛況裡に終えた。

（文責：TTCJ KK）